

恩徳清明祭 2025『中国人養父母感謝の集い』

中国人養父母感謝の集いが・・・

4月6日（日）、午前10時より、鹿児島市の天保山公園にて行われました。

2014年に建立し11年目になります。そして今年は戦後80年の節目の年でもあります。

11年前、残留孤児であられた鬼塚健一郎さんが尽力され、鹿児島市日中友好協会の会長の海江田順三郎氏の協力（まさに二人三脚で）で関係各所を廻り、建立にかかる費用のかなりをお二人で捻出され完成した碑です。数年前から体調を崩してお見えにならなくなりましたが代わりに、多くの遺華孤児会の二世、三世の皆さんが花をもって参拝に来られます。

そして、今年も昨年に引き続き福岡から中華人民共和国駐福岡総領事館の成岩副総領事が出席され、花を手向けました。

献花の後、鎌田 敬県日中友好協会会長の挨拶に続き、成岩副総領事の挨拶を頂きました。

・・・養父母と孤児が築いた絆は、両国に平和と友好の大切さを教えている・・・

又鎌田敬県日中友好協会会長は次のように語った。

『御承知の通り先の第二次大戦の末期に中国東北地区に起きまして・ソ連軍の不法侵入する大混乱の逃避行中に家族と離れ離れになった日本人の多数の孤児たちを引き取り、わが子のように養育され、その後は子供たちを快く日本に帰国させてくれました。私たちはこのような養父母の御恩を決して忘れてはいけないと思います。日中関係の改善、親善友好の促進に努力し、育ててくれた養父母の恩義に応えていかなければならないと考えます』

三 本 新 聞 2025年(令和7年)4月10日 木曜日 地域総合 14

恩に感謝 友好末永く

中国残留孤児・婦人の養父母供養



天保山公園で献花式

太平洋戦争後、旧満州国に取り残された日本人孤児らを育てた中国人養父母に感謝する献花式が6日、「中国人養父母感謝之碑」が立つ鹿児島市の天保山公園であった。戦後80年の節目となる今年には残留孤児や残留婦人の子孫、中国政府関係者ら約30人が集い、両国の末永い友好を願った。

「中国人養父母感謝之碑」に花を手向ける参加者
〓 鹿児島市の天保山公園

「大切なことを教えている」と語った。

感謝の碑は2014年、残留孤児だった同市の男性が「養父母の墓に代わる場所を」と発案、県、市の日中友好協会の協力で建立した。以来、祖先を慰霊する中国の清明節に合わせて開いてきたが、今年には病氣などを理由に元残留孤児らの出席はなかった。

同市の元中国語講師、曹青馨さん(70)は、残留婦人だった母をしのび、「母も私も日中友好が一番の望み。子どもたちの交流を活発にしたい」。元残留孤児2世で同市の依田美華さん(60)は近く50年ぶりに中国を訪れる。「養父母が母を助ければ今の私はない。碑に向かってありがとうと伝えた」

子孫、中国関係者ら参列

関係者によると、県内では約20人の元残留孤児がいるが、入院や施設に入居する人が増え、消息がつかみにくくなっている。県、市の日中友好協会とともに会長を務める鎌田敬さん(72)は「年1回会って当時の苦勞を語らう場として今後も続けていきたい」と話した。
(梅下陽一)



鹿児島県日中友好協会が主催。来賓で訪れた中国駐福岡総領事館の成岩副総領事(50)は「残留孤児は数千人に上り、戦争が生んだ悲惨な被害者となった。養父母と孤児が築いた絆は両国に平和と友好の



成岩副総領事（中国駐福岡総領事館）

鎌田敬鹿児島県日中友好協会会長



清明祭の後、中国総領事館主催で、
鹿児島県・市の交際交流課長、中国人
国際交流員、県市の日中友好協会役員、
遺華孤児会代表、中国留学生代表等と
シェラトンホテル 19 階のレストラン
にて**懇親ランチ会**がありました。
窓外には今がまさに満開の「甲突川の
さくら祭り」の最中でした。
空から眺めるこのような満開の桜は
まもなく中国に帰る交流員にとって忘
れ難き思い出になることでしょう。



作成は大石ケイジ（鹿児島市日中友好協会）